

アルゼンチン映画の秘宮（第3回）

New Century New Cinema presents Cine Argentino vol.3

アカデミー賞や映画祭受賞作以外は日本に知られることはまるでないが、今世界で最も注目される国の一つ、アルゼンチンは伝統ある南米の映画大国である。ジョン・アルトンやグレッグ・トーランドの弟子たちによる光と影の撮影、ラロ・シフリンやガトー・バルビエリらを輩出した Jazzy な音楽、時にボルヘスやコルタサルらも加わった文学的伝統を背景に持つ脚本……ヒューゴ・フレゴネーズからリサンドロ・アロンソまでを送り出したその歴史を見直してみると、軍政時代の暗い記憶やタンゴからくる一般的イメージを離れて、この映像的時代にダイレクトでリンクする同時代性を持った作品たちが見えてくる。このシリーズではそんなアルゼンチン映画の「陰の流れ」を追ってみる。

赤坂太輔（映画批評家）

第3回

2013年7月28日（日）

15:30-上映

四つの注釈

Esas cuatro notas

2004年（90分）※日本語字幕なし（本編内の文字情報は日本語字幕付き）

監督：ラファエル・フィリペッリ

出演：ヘラルド・ガンディーニ



作曲家・ピアニストのヘラルド・ガンディーニによるシューマンに想を得たオペラ「Liederkreis」が、2000年11月26日に上演された。初演とリハーサル、楽譜、そしてピアニストのハイデ・シュワルツ、エッセイストのベアトリス・サルロ、音楽学者のオマル・コラード、批評家のフェデリコ・モニョーの四人による注釈、無人の空間、とさまざまな映像と音のコラージュがオペラを解体し、映画は創造の瞬間をとらえようとする。

17:10-講演 ※入場自由

赤坂太輔

1965 年生まれ。ウェブサイト&シネクラブ「New Century New Cinema」主宰。
「マノエル・デ・オリヴェイラと現代ポルトガル映画」(E/M ブックス) 企画・執筆。
近年は、イギリスの Sight & Sound、イタリアの La Furia Umana、ペルーの
Desisitfilm、スペインの elumiere, 中央評論、nobody 等に寄稿。2008 年より立教
大学講師。

18:30-上映

夜の音楽

Música nocturna

2007 年 (83 分) ※日本語字幕付き

監督：ラファエル・フィリペッリ

出演：エンリケ・ピニエイロ、シル ヴィア・
アラシ



ブエノスアイレスの夜。中年音楽批評家と小説家のカップルが、メランコリックに
さまよう。男と女が体験する時間は、それを彩るフレーム外のノイジーな背景音と
クラシックとジャズ（アドリアン・イアイエス）の混合により、ドキュメンタリー
とフィクションの狭間で、より豊饒なものとなる。

■上映作品はデジタル上映

■料金

一般=1 回券 1,200 円/2 回券 2,200 円

アテネ・フランセ文化センター会員= 1,000 円

■会場

映画美学校試写室

東京都渋谷区円山町 1-5

KINOHAUS 地下 1 階

■主催

New Century New Cinema、アテネ・フランセ文化センター

■後援（予定）

在日アルゼンチン共和国大使館

■協力

ラファエル・フィリペッリ、映画美学校

以上

アテネ・フランセ文化センター
東京都千代田区神田駿河台 2-11
アテネ・フランセ 4F

TEL. 03-3291-4339 (13:00-20:00)

FAX. 03-3291-4340

担当：泉雄一郎

izumi@athenee.net